

## 検査項目のご案内

	検査項目	検査でわかること
生 化 学 検 査	総蛋白(TP)	血液中の蛋白質の総量を表し、栄養状態や肝臓・腎臓の機能をみています。
	アルブミン(ALB)	肝臓で作られ全身の栄養状態の指標となる蛋白質で、肝臓の病気や腎臓の機能の低下で低くなります。
	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)	肝臓、心臓、筋肉の細胞に多く含まれている酵素で、肝障害や心筋梗塞などで高くなります。
	アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	肝臓に多く含まれている酵素で肝臓や胆道の病気で高くなります。主に肝炎の指標となりますが、脂肪肝や肥満でも上昇します。
	乳酸デヒドロゲナーゼ(LDH)	広く体内の各臓器(肝臓・心臓・腎臓・血液など)に存在する酵素で、臓器の損傷の程度をみることができます。
	γ-グルタミルトランスフェラーゼ(γGT)	肝臓や胆道の病気で異常を示し、アルコール性肝障害や肝炎で高くなります。
	アルカリフォスファターゼ(ALP)	肝臓・胆道や骨の状態をみています。成長期にある小児は成人よりも高い値を示します。
	コリンエステラーゼ(ChE)	肝炎や肝硬変、低栄養で低下します。脂肪肝では高くなります。
	総ビリルビン(T-Bil)	主に肝臓や胆道の障害で高くなり、黄疸の指標となります。
	直接ビリルビン(D-Bil)	
	アミラーゼ(AMY)	膵臓や唾液腺から分泌される消化酵素で、膵臓や唾液腺の病気で高くなります。
	クレアチンキナーゼ(CK)	心臓や骨格筋などの損傷の程度を反映します。心筋梗塞など心臓の病気や筋肉の病気で高くなります。
	尿素窒素(BUN)	蛋白質が分解されたもので、腎臓の機能が低下すると高くなります。
	クレアチニン(CRE)	運動のエネルギー源となるアミノ酸が代謝されてできた物質で腎臓から排出されます。腎臓の機能が低下すると高くなります。
	e-GFR	クレアチニンの値と年齢、性別から算出します。腎臓の働きの指標となり年齢とともに低下しますが、低下速度が速いと腎機能の低下が疑われます。
	尿酸(UA)	細胞を作る際の成分であるプリン体が分解してできた老廃物で、腎臓から排出されます。痛風や腎機能障害の指標となります。
	ナトリウム(Na)	体の中の水分調整に関係します。脱水などで増加し、水分過剰や浮腫などで低下します。
	カリウム(K)	筋肉、細胞活動に関係します。腎不全や薬の副作用で高値となり、嘔吐や下痢などで低下します。
	クロール(Cl)	浸透圧を調整する役割があります。体液のバランスを反映します。
	カルシウム(Ca)	骨の病気や様々な内分泌の病気で変動します。腎障害や副甲状腺異常、骨代謝異常などで増減します。
	総コレステロール(T-CHO)	血液中の脂質を調べる検査で脂質代謝や肥満の状態を反映します。多すぎると動脈硬化症などの生活習慣病の原因となります。
	中性脂肪(TG)	
	HDLコレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、血管に付着したコレステロールを取り除き、動脈硬化を防ぎます。
LDLコレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれ、増加するとコレステロールが血管壁に溜まり、動脈硬化が促進します。	
グルコース(GLU)	血液中のブドウ糖を調べる検査で体のエネルギーとして大切な要素です。糖尿病の重要な指標の一つで、食事の影響を受けるので空腹時に検査します。	
ヘモグロビンA1c(HbA1c)	過去1~2か月の平均的な血糖値を反映し、高血糖状態が続くと高くなります。糖尿病での血糖値の管理に有用です。	
C反応性蛋白(CRP)	炎症や組織の障害の重症度を調べます。体に炎症があると高くなり、回復とともに低くなります。	
血 液 検 査	白血球(WBC)	血液中の白血球の個数を調べます。異物の侵入に対抗して体を守る働きをしています。少ない場合は、体の防衛反応が低下して、病気にかかりやすいことを意味しています。白血球の増減を知ることで、体の状態を把握したり病気の推定に役立ちます。
	赤血球(RBC)	血液中の赤血球の個数を調べます。赤血球は体の様々な細胞へ酸素を運び、二酸化炭素を受け取って肺まで運び出す働きをしています。
	ヘモグロビン(Hb)	赤血球の中にある酸素を運ぶ中心的役割を担っている物質です。貧血の指標となります。
	平均赤血球容積(MCV)	
	平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)	
	平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)	赤血球数・ヘモグロビン量・ヘマトクリット値から計算する指数で、赤血球の体積や色の濃さを表し、貧血の原因を鑑別する手がかりが得られます。
血小板(PLT)	血液中の血小板の個数を調べます。血小板は血管に傷ができると直ちに蓋となって血を止める働きをしています。数が減ったり、機能が低下すると血が止まりにくくなります。	
凝 固 検 査	プロトロンビン時間(PT)	血液の凝固異常を調べる検査です。出血傾向があると延長します。また、ワーファリン治療時に薬の量を調整するために測定します。
	活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	血液の凝固異常を調べる検査です。血友病などの出血性の病気の診断やヘパリン療法の経過観察にも必要な検査です。
	フィブリノゲン(Fib)	止血に関与する血液凝固因子の一つで、血液凝固の仕組みに異常をきたす病気などで低くなります。高い場合は炎症の指標となります。
一 般	尿定性	糖、蛋白、潜血などの有無を試験紙により調べます。
	尿沈渣	尿中の細胞や結晶、細菌などを機械や顕微鏡で調べます。